

参加実習の現状と今後の課題

林 川 基 治

Present Condition and Future Subject of Participation Practice

HAYASHIKAWA Motoharu

(Received May 15, 2002)

キーワード：参加実習，教育実習，評価

1. まえがき

山口大学教育学部附属養護学校では，参加実習と介護体験実習に関する取り組みについては，1998年前後から附属養護学校と教育学部養護教育の担当スタッフで実施検討が始まりました。全国的にも早い段階に実施検討が開始されましたので，関連施設から多くの問い合わせがありました。

現在の教育学部で行われている参加実習の受講生は2回生で200人の学生が，3グループに分かれて附属養護学校で5月～6月に3日間実施されています。現在では教員免許の単位として必修となりました。平成12年度に実施された参加実習の現状と今後の課題について検討したことを述べます。

2. 参加実習の現状

1. 障害児教育参加実習のねらい

- (1) 参加実習を通し、附属養護学校の児童・生徒の実態を学び、障害児教育の理解を深める。
- (2) 個への指導場面を見学し、児童・生徒の個の実態やニーズに応じた指導について学ぶ。

2. 1 オリエンテーションの概要

教育学部の教育実習関連の掲示板に参加実習のオリエンテーション日程と参加実習受講者名簿を掲示し，掲示の内容の確認を参加者にさせる。

参加実習の活動内容と実習担当クラス分けの資料を附属養護学校の実習担当の先生に依頼し作成して頂く。

参加者名簿の学生を3グループに分けて，各グループを10クラスに組分けした表を実習用の掲示板に掲示する。

実習生自身に掲示内容を確認させ修正事項の要望があれば名簿等の変更及び修正を行い，

実習実施日を確定する。

参加実習担当教官がオリエンテーションと参加実習の実施に必要な資料の作成をする。オリエンテーション実施は2組に分け、2回実施する。各教室行事等との重なりが無い様に、各教室に確認して、オリエンテーションの組分けを行う様にしている。

参加実習に参加するための必須条件については実習生本人が学務で各自が確認をする様に掲示している。

2. 2 オリエンテーション実施

教育学部の養護教育専門家による養護教育に関する講義及び、参加実習のガイダンスの説明を行う。

教育学部の参加実習の担当教官より参加実習の目的と内容に関する説明及び、参加実習の実施に当たっての準備と注意事項に付いて説明をする。

2. 3 参加実習実施日までの実習生に対する課題と確認事項

オリエンテーション時に資料として渡した、「参加実習の心構え」を読んで実習に当たっての心構えを養っておく。

- 1) 児童・生徒への接し方
- 2) 交通安全に関するチェック事項
附属養護学校への登校時の交通手段とルートの確認等
- 3) 大学生（実習生）の予習・準備に関する事項について
- 4) 児童・生徒の行動様式に関する予備知識
- 5) 児童・生徒を引率する時の諸注意及び心構えの確認
- 6) 児童・生徒の学習能力・学習速度等の一般的な事例確認

これらの1)～6)項目についての課題や確認をするよう指導を行っている。

2. 4 養護学校での参加実習の実施

添付 資料 1 参加実習の進行表に示す。

添付 資料 2 障害児教育参加実習レポート
を参照すること

3. 参加実習の評価

3. 1 レポート評価

- 1) 参加実習のレポートの評価は実習担当のセンター教官が評価を行っている。
- 2) レポートの内容についての分析

レポート提出状況としてはレポート提出期限を守らない学生が3名いた。レポート内容の項目は指定せずに、自由な形式で書いて提出するものであったが、その内容の項目をカ

テゴリーごとに整理すると次のようになった。

- ・出会った子どもに関する説明文
 - 個々の子ども
 - 一般的な子ども
- ・実習中の児童の行動様式
 - 児童同士の双方向
- ・実習中の実習生の行動様式
 - 一方的
 - 双方向
- ・児童と実習生の話のパターン
 - 一方的
 - 双方向
 - 児童同士
- ・指導教官の話のパターン
 - 事前指導
 - 事後指導
 - その場での指導
- ・反省のパターン
 - 実習内容に関する
 - 一般的なことに関する
 - 自分自身ことに関する
 - 集団的なことに関する
- ・評価のポイント
 - 実習内容に関する
 - 一般的なことに関する

以上のカテゴリーの項目に整理を行って、分析をした報告は本論では触れないで、次回の報告で行うことにします。

3. 2 実習で使用する器具・遊具に関する事項

使用する遊具・教具の使用方法和使用とに当たっての点検を十分にしておく。
使用方法、器具の強度的な限界、同時に使用可能人数、使用中の状況確認を行うこと。

1) 調理に関する事項

調理の材料確認、使用器具準備と点検及び安全面の確認、調理方法を確認すること。
食べる準備、食べた後かたづけを行う。

2) 運動に関する事項

準備運動、運動中、整理運動の児童の状況を確認しながら行うこと。
服装、シューズ、使用具等の確認、周囲の状況の確認、児童の状態の確認等をオリエ

ンテーションの資料中に添付している。

3) 各運動に関する事項

トランポリン、風船バレーボール、ソフトボール、サッカー、陸上競技、フリスビー等の運動が実習生と児童・生徒と一緒にできる設備が整っている。

3. 3 校外散歩に関する事項

引率する目的地までのルートと交通安全の確認を行いながら実習を行う。

交通指導・ルートから外れて横道にそれないように常に、児童の行動を観察して、必要があれば注意や指導を行うこと。

3. 4 健康に関する事項

児童の生活健康状態を確認すること。担任の養護の先生が同行しているので、予測できない状況が発生した場合は、担任の養護の先生に確認をとること。

4. 児童・生徒の指導に関する事項

児童の状況と人格、個性に状況に沿った臨機応変の対処が必要である。

4. 1 知能の発達段階に関する事項

それぞれの児童の個人差があるので、不安な状況になった場合は担任の養護の先生に確認をとる。

4. 2 情操面に関する事項

それぞれの児童行動様式から状況を判断して適切に対応すること。参加実習の心構えの資料中に明記してある。

5. 参加実習の今後の課題

5. 1 参加実習に関する資料

現在渡している資料を改善して、検討を加える必要が有る。本論で取り上げた諸問題等を参照して頂きたい。

1) オリエンテーションの資料

オリエンテーションの時に詳しく、資料をもとに説明を行っている。

2) 参加実習に必要な資料

オリエンテーション時に、実習生に渡す「参加実習の心構え」資料を以下に添付します。

添付 資料3 参加実習の心構え を参照こと

5. 2 参加実習実施に関する観点及び感想

- 1) 護学校の参加実習担当教官と教育学部の教育実習担当者の連絡調整を行う組織が必要である。現在は歴史的に、これまでの実習担当者同志が調整して、問題なく運営が行われている。今後この環境がいつまで維持できるか分からないので、担当者が変更になっても参加実習が運営できるようなマニュアルを作成する必要がある。

5. 3 参加実習のレポートに関するもの

1) 注意点

内容が口語体でかかれている部分がよく出てくるので文章化する時に統一した書体で記入するよう指示する。言った内容を「」でくくるか、文語体に変更して文章化にするよう指示する。

2) 諸問題

レポート内容が実習クラスと班分けが同じ実習生は、ほぼ同じ内容になるのでレポート内容が同じにならない課題設定等に工夫する必要がある。

3) 課題

実習内容の行動項目を書く位置やカテゴリー毎に何を書いたかを明確に示してレポートの作成をするよう指示する。

4) 留意点

内容を読んで状況判断ができるように、周囲の状況や環境等の状況、児童・生徒との実習生のやり取りの状況説明も明確に書くよう指示する。

5) 評価

評価の観点を決め、記入したカテゴリーの項目数等に項目数と内容の深さを評価ができるようレポート作成する前に実習生に明示する。

5. 4 参加実習の実施に関する指導及び準備と担当教官

1) 細部に渡る実習内容の課題・準備

参加する養護学校のクラスごとの実習指導は各クラスの指導教官に依頼して行っている。

6. まとめ

6. 1 参加実習の児童。生徒と関わる時間が短く、2時間程度なので参加実習の課題や実習内容を十分展開できないことができないので、準備と実習結果の整理に十分時間をかけて検討するように指示する。実際の実習を終わって、将来の教師になる動機付けや将来の展望にどのように影響したか短い感想文を書いてレポートを提出するように依頼する。

介護実習の依頼先として附属学校に受け入れてはどうか、行事や模様しもので、学生のボランティアが必要になった時の場合に、介護実習としてカウントする制度を設けてい

れば有効に活用できると思われる。

参加実習に関する授業評価等のアンケートを取って、今後の参加実習をより充実したものにしていきたい。

6. 2 参加実習の評価に関する事項

参加実習 1日（2時間程度）

介護体験 1日（内容によって異なる半日程度）

介護等体験 5日（社会福祉関係の諸施設で5日間）

がセットになって実習の評価が行われているので各実習のバランスの取れた評価になるように各実習担当が調整して評価が行なわれている。

参加実習の進行表

1) 参加実習集合会場の設営作業

会場の設営係（実習生中から12名を任意に抽出）が早く集合して行う。

出席表・参加実習出席証明書・名札・資料の準備をする。

引率の教育学部教官と実習生の設営係は集合時間を20分早くするようオリエンテーション時に確認しておく。（資料の名簿の中から前もって選んでおく）

2) 始めの会

附属養護学校の校長先生のお話

養護学校の実習担当先生から参加実習の諸注意及び連絡事項の説明

養護の先生から児童の健康面に関する諸注意の説明

障害児教育と健康安全についての説明

1. 児童生徒個々の実態や特性

2. 保健管理

学校保健安全計画

(1) 心身の管理

- ・健康診断
- ・健康観察
- ・相談活動
- ・救急処置
- ・伝染病予防対策

(2) 生活管理

①てんかん児の場合

- ・発作の様子記録
- ・生活のリズム
- ・投薬
- ・はみがき

②肥満児の場合

- ・食生活指導
- ・運動

③体温調節困難児

- ・水分摂取
- ・衣服の調節

④排便排尿困難児

⑤姿勢

⑥禁忌事項

(3) 環境管理

3. 保健指導

4. 性教育

この項目の入ったメモ可能な様式をオリエンテーションの資料として添付してある。

教育学部の参加実習引率教官の実施に当たっての諸注意と確認事項の説明

「これから皆さんは、各学級で、それぞれ活動に入るわけですが、その前に、皆さんに2・3注意事項があります。」

まず第1点は、マナーについて一般的な常識と節度ある行動をとるようにしてください。特に実習活動中は私語をしないようにすること。学生の皆さん同士がお互いに近づかないようにすれば、私語は必要最小限になるなど工夫してください。そうすれば、皆さんは生徒達との活動がより活発になると思います。

第2点は、携帯電話等電源は**OFF**にしておくようにください。

第3点は、皆さんは教師として半日を過ごすわけですから、教師として生徒さんの模範にならなければいけません。廊下では先生方や、生徒さんがたくさん歩いています、そのときは軽い会釈などしましょう。

第4点は貴重品の管理は各自で管理してください。この体育館には残さないで身に付けて持っていてください。

第5点は、こちらの生徒さんは、知的発達障害ということで発達が非常にゆっくりしていることをオリエンテーションの講師時の先生からお話がありました。確かに精神年齢2歳あるいは3歳児の段階にいる生徒さんがたくさんいらっしゃいます。ところが心の成長か、感情面の発育は皆さんとまったく一緒だと思ってください。養護の先生のお話にありましたように、生徒さんによっては、皆さんに住所や電話番号を聞てきたり、ほのかな、恋心が芽生えるようなこともあるかも知れません。そのような面は皆さんと一緒になのです。このような時の対応をどうするかを求められることもあるかも知れません。その時には、生徒さんたちも私たちと基本的には、一緒なのだという気持ちで接することが一番大切なことだと思います。その時の対応のしかたですが、もし住所や電話番号を聞いてきた時には、これまでの例から言って、伝えない方が、よろしいかと思います。それぞれのケースに柔軟に且つ、適切に対応していただきたいと思います。」

「また、実習活動を終了して質疑応答の時間を予定していますので、活動中に感じたことや・疑問に思ったこと等があれば質問の用意をしておいてください（もし事前に各学級で調整する時間が有りましたら調整しておいてください）」

「次に、介護等体験記録簿の取り扱いについてお話しします。」

「附属学校での参加実習と介護実習は共に半日ですが、オリエンテーションとレポートの提出等で、それぞれ一日分としています。」

介護等体験記録簿の記入方法は、学部・過程・コース・番号・氏名を記入し、一番上の記入欄の項目にある

体験時間 に「1.0」日

累積時間にも「1.0」日

主な活動内容ところは 「参加実習」と記入してください。

記入が完了したら、出席を証明する「介護実習」の印鑑を押してもらってください。以上で記録簿の記入は完了しています。

次の介護体験実習を附属学校で行う時には、この介護等体験等記録簿を持参してくだ

さい。同様に必要事項を記入して印鑑を押してもらってください。

参加実習・介護実習に参加して記入欄の2箇所が埋まったら（参加実習と介護実習、出席を証明する印鑑）、教育学部事務（学務係）に提出してください。

記入欄が埋まるまでは皆さん自身が介護等体記録簿を大切に保管し実習を受けて、必要な記入欄が埋まるまでは各自で管理してください。

実習に参加時には必ず介護体験記録簿を持参して出席印をもらってください。

皆さんが卒業時点で教員免許を申請する時に、介護体験記録簿は証明書となるものですから必ず実習が完了した時点で、学務係に提出するようにしてください。

3) 参加実習の開始

配属クラス毎の直前指導をクラス担任先生から指導があり、各クラスで参加実習の活動を行う。教育学部の引率教官は実習内容の全般的な参観を行い、実習状況の進行状態を確認する。

4) 終わりの会

副校長先生お話

初等・中等・高等部の養護学校教諭を交えて質疑応答・反省会えを行う。

「質問のある実習生は、挙手して、質問内容を具体的に話してもらう前に、どの学級であったか、どんな活動であったか、できたら生徒さんの名前も含めて、状況を詳しく説明してもらえると、答えられる先生方も解答し易いかと思います。」

教育学部の引率の教官確認事項及び実習内容に関する諸注意事項を説明し、参加実習出席表を作成し捺印をして、出席表を作成させる。

5) 後片付け

参加実習参加者全員で会場の後片付けをする。

借りた物品を返却させ、忘れ物等の確認して参加実習を終了する。

6) 参加実習の提出物

・レポートの作成して、指定された場所に提出する。

白紙のA4用紙1ページに参加した内容のレポートを作成して提出場所に提出する。

添付 資料 2

附属養護学校における 障害児教育参加実習レポート (平成 年度 2 年次生教育実習)

課 題：参加実習を通じて学び得た内容について、以下の視点を含めて論述しなさい。

- ◆児童・生徒との交流
- ◆教育・指導上の配慮

1. 提出期限：参加実習翌週の金曜日正午（下記参照） ※期日厳守のこと（期限後は一切受け付けない）

Aグループ 月 日 () 時間
Bグループ 月 日 () 時間
Cグループ 月 日 () 時間

2. 提出先：

3. 参加教室：A－指導領域の内容 ()
B－指導教官名 ()

4. 提出者：

上記の項目の入ったレポート様式をオリエンテーションの資料に添付している。

実習生は出席表の記入欄が全て記入して、証明印を捺印した証明書を学務係に提出する。

添付 資料 3

参加実習の心構え

- ・ 集金係について
お金の管理、学級活動でお金を必要とする場合がありますら、その都度係を決めて、当日中に学級担任の先生に手渡す。
- ・ 生活の中で健康管理には注意していますか。
今日の朝ごはんは食べましたか。睡眠は十分ですか。
- ・ 2年生で参加実習を受講する
専門的な知識が十分まだ備わっていない時期ですが生徒さんたちと一緒に活動する中で、直接体験して学んでください。
- ・ 教員養成では実習に力を入れて指導する傾向になっている。
今後の教育実習を受ける中で、最初の教育実習ですのでしっかり実習活動して、次の教育実習の参考にしてください。
- ・ 小学部・中学部・高等部で学級編成されている。
生活年齢でクラスを分けしていない編成になっている。ある程度幅を持って編成してある。

- ・クラス編成の変更（配置換え等の連絡）確認・準備物品、持参品を持って活動学級に速やかに移動する。
- ・諸注意・諸連絡は必ずメモ等を取って後で確認できるようにしておくこと。
- ・マナーのことについて

参加実習は今年で9回目になります、歴史がある中、学生のマナーがなっていないのではないかと、

という厳しいお言葉がありました。ポケットから手を出すなど。それは必ず守るようにしましょう。
- ・私語は慎む

「ザワザワザワ」大学の講義中に大きな問題になっているのですが、実習生の皆さんが2メートル以内に近づかないようにしなさい。皆さん、仲良しこよしは御法度にしましょう。皆さん同士がお互いに近づかないようにすれば、学生同士の話というのは、必要最小限になることでしょう。皆さんの関心を自然に生徒さんに向けていく等、気持ちを持つことが大切です。
- ・携帯電話等のスイッチはOFFにしておくように。
- ・廊下では会釈をしましょう。

皆さんは教師として半日すごすわけですから、教師として生徒さんの模範にならなければいけません。廊下では先生方や、皆さんがたくさん歩いています。軽い会釈をすることは大変大切なことだろうと思います。
- ・貴重品の管理は各自で身につけて行う（体育館に残さないように）

皆さんのポケットやカバンの中に入れ身近に携帯してください。
- ・もし、住所や電話番号を聞いてきた時には

オリエンテーションの時に附属養護学校について講義しました時生徒さんは、知的発達障害ということで発達が非常にゆっくりしているということのお話がありました。確かに精神年齢2歳、あるいは3歳の段階にいる生徒がたくさんいらっしゃいます。知的発達のあゆみです。ところが心の成長といいますか感情面の発育は皆さんとまったく一緒だと思ってください。生徒さんによっては、皆さんに住所や電話番号を聞いてくるとか、また恋心が芽生えることもあるかも知れません。このような面は皆さんと一緒になのです。このようなときの対応が求められることもあります。一番基本的なことは、この方たちも私たちと一緒にのだという気持ちで、対応しましょう。もし住所や電話番号を聞いてきた時には、やはり、伝えない方が、これまでの例からいって、よろしいかと思えます。

生徒と活動するための注意事項

- ・茶髪等の髪染めはしないようにしましょう。また、ピアス等の光るものは身につけないこと。
- ・自転車で来た方で附属学校の前の信号で左右をよく見て渡りましたか。生徒の引率等で校外活動するときは、交通ルールを守って、しっかり安全確認をしましょう。

- ・今日、一日小学生、中学生、高校生に戻った気分を思い出して、活発な活動をしましょう。
- 今は大学生で教育実習生であることをしっかり自覚しながら、子どもたちと一緒に気分を味わって頂けたらと思います。
- ・言葉ではなかなか通じ合わない。
 - 言葉以外のもので通じ合うすばらしさもじっくり味わって帰っていただきたい。
- ・相手と同じ気分・気持ちになるには
 - 皆さんが、生徒の相手になる時には、あまり今の自分を意識し過ぎないで、ちょっと自分の事は置いておいて、客観的に見ることも大切です。
 - 環境の中にスーとまぎれこむというか、相手と同じ気分になることが大事だと思います。一番簡単なのは、その人と同じ呼吸を試してみる。そばによって同じ速さで呼吸をして、同じ速さで話をしたりすれば、ああ、今こんな気分だったのだという自分を感じることができると思います。
- ・生徒さんには自尊心があります。
 - 各クラスにいかれるわけですが、それぞれ活動内容は違ってきます。その時に、相手の気持ちになるのですが、生活年齢でたとえしゃべれなくても、高校生は高校生、ちょっと足が不自由で速く歩けなくても、中学生は中学生、幼稚だなど思っても、やっぱり小学生なのです、それぞれに、自尊心がありますので、中学生には中学生、小学生には小学生、高校生には高校生のように、接して欲しいと思います。
- ・生徒さんたちとの話し方について
 - 生徒さんたちは話し方を指導中です。実習生の皆さんが活動の中でしっかり練習させてください。
 - 特に、生徒に接する時の挨拶や話す言葉使いは生徒さんの手本に成るよう対応してください。
 - さまざまなことが同時進行で、ちょっと難しいかも知れませんが、いろいろとどんどん関わって行ってください。

健康と安全面について

- *必要事項は資料にメモ取ること
- ・附属保健室の場所を確認すること。
- ・実習生の健康状態の確認（あまり時間を取らないで確認できる範囲で良い）
 - 学級配属されたら体調の悪い生徒の名前と状態を確認すること
 - 体調：症状 下痢・便秘・腹痛・頭痛・風邪・捻挫・筋肉痛等
 - 体調が不良で無理をしている状態でがんばっている、正常な活動ができなくなる場合もあるので注意は怠らないようにしてください。
- ・ダウン症 関節がはずれ易いので生徒に触れる場合は十分注意してください。
- ・視力障害で屋外ではサングラスの着用が必要な生徒
- ・脱水症状 自分で水分コントロールができない生徒
- ・衣類の脱着のコントロールが上手にできない生徒

- ・生徒の関わる行動に対して明確に意思表示して指示をするようにすること
若いお姉さんや、お兄さんが来ているので、ほのかな恋心が芽生える場合があるかも知れません。
その他、いろんな状況が起こるかも知れません、はっきりしたことばで適切に対応してください。
「嫌なものは嫌」、「自分の意思や気持ちをはっきり伝えて」活動してください。

介護体験記録簿の取り扱いについて

一番上の欄に体験時間に「1.0」 累積時間も「1.0」、主な活動内容に 「参加実習」と書いてください。

今日の参加実習の活動を終了して指示した時に印鑑を捺印してもらうことで、参加実習を受けた証明になりますので必ず印鑑を押してもらってください。

参加実習は半日ですが、オリエンテーションとレポートの提出等を考慮して一日分としています。

介護実習も半日ですが、オリエンテーションとレポートの提出等を考慮して一日分としています。

次に介護体験実習を附属で行う時にはこの介護体験記録簿を持参してください。同様に必要事項を記入して印鑑を押してもらってください。

参加実習・介護実習に参加して記入欄が2つ埋まったら（参加実習と介護実習、出席を証明する印鑑）、教育学部事務（学務係）に提出してください。

欄が埋まるまでは皆さん自身が介護体験記録簿を大切に保管し、各実習を受けて記入欄が埋まるまでは実習参加時には必ず持参すること。卒業時点で免許を申請する時に、介護体験記録簿は証明書となるものです。